2Xa－7　　「消費単位」の研究

大阪市立大生活科学部　○大藪　千穂

目的　世帯を構成する、性・年齢の異なる人間の「消費」の大きさを、一定の「単位」であらわした「消費単位」を、その研究の系譜、検証と試算の３つの側面から体系的に研究する。

方法　「消費単位」の系譜については、「消費単位」の研究の歴史のなかで、転換点となった研究をとりあげてどのように算定の方法が変化してきたかについてまとめる。

「消費単位」の検証では、そのなかから、サイデンストリッカーとキング、ニコルソン、プレイスとハウタッカーの３つの研究をとりあげ、わが国の総務庁統計局が実施している「全国消費実態調査」の大阪府の勤労者世帯の1183世帯の家計データによって検証をおこなう。

「消費単位」の試算は、検証の結果もっとも理論的基礎が明確かつ実際の家計データによる算定方法が比較的容易な研究が、ニコルソンの研究であったので、かれの方法を用いて、あらたに実用的な子供の「消費単位」を試算した。

結果　子供にかかる費用を、子供の年齢を３つの「タイプ」に分類して、10大費目について算定した。試算の結果、消費支出額の場合、「夫婦世帯」を1.00とすると、０～５才の子供は0.05、６～12才の子供は0.35、13～18才の子供は0.55となることがわかった。